

報告第8号

一般社団法人豊岡観光イノベーション第10期の決算及び第11期の事業計画に関する書類について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり報告する。

令和8年6月11日提出

豊岡市長 門 間 雄 司

決算等の状況の報告

一般社団法人豊岡観光イノベーション

事業の概要と成果

2025年度は、引き続き豊岡市及び企業からの派遣職員により組織体制を維持・発展させ、当法人が主体となって柔軟性と効率性を発揮し、観光地マーケティングに取り組みました。

インバウンド事業については、WEBサイト「Visit Kinosaki」を活用したWEBマーケティング、メールマーケティングによる情報発信、受入体制強化のためのベジタリアン・ハラール対応、英語ローカルガイドの養成などに取り組みました。また、旅行会社向けプロモーションの強化により、ツアー等売上高は前年を50%以上上回りました。さらに、城崎温泉に加え市内周辺観光地の認知拡大や、シンガポール・台湾等を対象とした誘客施策、高付加価値旅行者層への対応、CRMマーケティングを推進しました。その結果、2025年の外国人観光客延べ宿泊者数は102,270人泊となり、初めて10万人を超え過去最高を更新しました。

国内誘客事業については、観光公式サイトの流入・回遊強化、観光協会との連携、ふるさと納税返礼品「豊岡旅幸券」の利用促進に取り組みました。体験プログラムの販売は、大阪・関西万博の影響も一因と考えられ、前年比25%減少となりました。一方、「豊岡旅幸券」は、成り立ちのストーリー発信や広告・メールマガジン等の取組みにより、寄附額は2億3,254万円となり、過去最高を記録しました。また、ふるさと納税の寄附履歴や来訪状況等に応じたセグメント別メールマーケティングを開始し、豊岡ファンの拡大に取り組みました。

観光DX事業については、宿泊施設の予約データを自動収集・分析するシステム「観光DX基盤」を活用し、レポート解説会の開催や観光事業者への情報共有、LINEによる来訪者予測の配信を継続しました。これらは、宿泊施設に加え、飲食店・物産事業者にも活用が広がり、仕入れや人材配置の判断に役立てられています。2025年度は国の補助金を活用し、コスト削減と高度な分析を可能とする第二世代の構築及び移行を行いました。また、「豊岡観光DXパスアプリ」により、パスポートの写しの保管や国籍集計の簡素化を実現し、宿泊施設の業務効率化に寄与しています。現在60施設で導入されており、市内全域での普及拡大を図ります。さらに、国の補助金を活用してGoogleMAPに表示される店舗情報の充実を図り、インバウンドの受入体制を強化しました。

インナープロモーションについては、市広報紙を活用し、観光による地域貢献や来訪者の声を発信することで、市民のまちへの誇りや愛着の醸成に取り組みました。また、市民の観光に対する満足度の可視化を進め、課題の把握と対策の検討を行っており、今後も継続的に定点観測を行います。

また、新たな取り組みとして、地域ブランドの発信と土産物店等の収益向上を目的に物販事業を開始しました。城崎・神鍋高原の世界観を表現したキービジュアルを制作し、オリジナル商品を城崎文芸館や道の駅神鍋高原等で販売しています。観光消費の拡大に加え、当法人の自主財源確保にもつなげ、持続可能な観光地域経営を推進していきます。

これらの取り組みを継続し、事業者の利益向上支援に引き続き尽力してまいります。

2025年度の損益状況は、営業利益7,102千円、営業外収益403千円となり、当期経常利益は7,462千円、税引後の当期純利益は、3,458千円となりました。関係者の皆様方からのご支援、ご協力の賜物であり、役員・職員日々業務に取り組みましたことをご報告いたします。

一般社団法人豊岡観光イノベーション 組織概要

1. 設立日

2016年6月1日

2. 社員

豊岡市

WILLER株式会社

全但バス株式会社

株式会社但馬銀行

但馬信用金庫

3. 役員

理事長 二宮 秀生

副理事長 村上 宣人

副理事長 土生田 哉

事業本部長 馬場 莊一郎

理事 村瀬 茂高

中島 高幸

川上 晃弘

高宮 浩之

荒木 利雄

監事 作花 良祐

4. 事業本部職員

事業本部長（理事、派遣職員） 1名

派遣職員 6名

正職員 1名

嘱託・臨時職員 6名

5. 基金拠出額

28,700千円

決算報告書

第 10 期

自 2025年 4月 1日

至 2026年 3月 31日

一般社団法人豊岡観光イノベーション

(一社)豊岡観光イノベーション
貸借対照表
2026年 3月31日 現在

単位:円

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
I 流動資産	193,273,917	I 流動負債	108,145,305
1 現金	20,225	1 未払金	8,637,296
2 預金	175,845,563	2 未払法人税等	3,951,300
3 売掛金	198,490	3 前受金	338,400
4 商品	2,434,068	4 預り金	239,665
5 貯蔵品	40,000	5 V K 仮受金	15,344,413
6 前渡金	300,000	6 旅幸券仮受金	78,937,131
7 前払金	7,419,447	7 未払消費税等	697,100
8 未収入金	5,799,929	II 固定負債	9,000,000
9 仮払金	1,216,195	1 長期借入金	9,000,000
II 固定資産	13,785,317	負債合計	117,145,305
1 有形固定資産	1,988,067	純資産の部	
・ 工具器具備品	1,361,067	I 純資産	96,652,138
・ 一括償却資産	627,000	1 基金	28,700,000
2 無形固定資産	8,797,250	2 利益剰余金	67,952,138
・ 無形固定資産	8,797,250	・ 繰越利益剰余金	67,952,138
3 投資その他の資産	3,000,000		
・ 差入保証金	3,000,000		
III 繰延資産	6,738,209	純資産合計	96,652,138
1 繰延資産	6,738,209	負債・純資産合計	213,797,443
資産合計	213,797,443		

(一社)豊岡観光イノベーション

損益計算書

自 2025年 4月 1日
至 2026年 3月31日

単位:円

科目	金額	備考
I 純 売 上		
1) V i s i t K i n o s a k i 手 数 料	13,432,359	
2) ツ ア ー 等 売 上 高		
・ 着 地 型 ツ ア ー、 体 験 プ ロ グ ラ ム	14,896,857	
・ 旅 行 会 社 ツ ア ー	20,796,034	
3) ふ る さ と 納 税 返 礼 品 売 上 高	13,141,326	
4) 視 察 売 上 高	4,228,328	
5) マ ー ケ テ ィ ン グ 売 上 高	2,542,271	
6) 物 販 売 上 高	571,050	
7) 会 費 収 入	1,430,000	小計 71,038,225
8) 補 助 金 収 入	17,088,211	
9) 負 担 金 収 入		
・ 海 外 誘 客 推 進 負 担 金	15,003,000	
・ 国 内 誘 客 推 進 負 担 金	6,476,000	
・ 機 能 強 化 負 担 金	23,883,000	小計 45,362,000
10) 委 託 料 収 入		
・ 観 光 地 消 費 拡 大 推 進 業 務	8,000,000	
・ 豊 岡 市 ふ る さ と 納 税 寄 附 者 へ の メ ー ル 配 信 業 務	2,640,000	
・ 神 鍋 高 原 WEB 等 を 活 用 し た プ ロ モ ー シ ョ ン	4,565,000	
・ 良 好 な 環 境 を 活 用 し た 観 光 推 進 業 務	9,966,380	
・ フ ラ ッ プ ト ョ オ カ 管 理 運 営	436,200	小計 25,607,580
	159,096,016	
II 売 上 原 価		
1) V i s i t K i n o s a k i 関 連 経 費	4,253,142	
2) ツ ア ー 等 関 連 経 費		
・ 着 地 型 ツ ア ー、 体 験 プ ロ グ ラ ム	11,265,175	
・ 旅 行 会 社 ツ ア ー	14,551,126	
3) 視 察 関 連 経 費	1,885,701	
4) 仕 入 高	3,163,789	35,118,933
5) 期 末 商 品 棚 卸 高	2,434,068	32,684,865
		126,411,151
III 販 売 費 お よ び 一 般 管 理 費		
1) 給 料 手 当	15,160,751	
2) 賞 与 手 当	5,514,214	
3) 役 員 報 酬	1,200,000	
4) 法 定 福 利 生 費	6,806,295	
5) 福 利 生 費	208,587	
6) 広 告 伝 達 費	29,834,088	
7) 運 賃 費	1,340	
8) 旅 費 交 通 費	1,991,039	
9) 交 際 費	296,348	
10) 会 議 費	506,477	
11) 車 両 費	406,959	
12) 通 信 費	1,747,467	
13) 水 道 光 熱 費	408,769	
14) 租 税 公 課 費	155,140	
15) 消 耗 品 費	1,633,451	
16) 共 益 費	240,000	
17) 賃 借 料	2,232,000	
18) リ ー ス 料	2,307,244	
19) 修 繕 費	110,000	
20) 保 険 料	95,801	
21) 支 払 手 数 料	8,322,662	
22) 諸 会 社 費	100,000	
23) 負 担 金	600,000	
24) 新 聞 図 書 費	2,077	
25) 減 価 償 却 費	3,775,131	
26) 委 託 修 繕 費	33,195,258	
27) 研 究 修 繕 費	658,718	
28) 委 託 販 売 手 数 料	98,623	
29) 消 費 税 等	1,700,100	119,308,539
		7,102,612
IV 営 業 外 収 益		
1) 受 取 外 利 息	343,882	
2) 雑 収 入	59,515	403,397
V 営 業 外 費 用 息		
1) 支 払 利 息	43,270	43,270
		7,462,739
経 常 純 利 益		7,462,739
税 引 前 当 期 純 利 益		7,462,739
法 人 税、 住 民 税 及 び 事 業 税		4,003,963
当 期 純 利 益		3,458,776

個 別 注 記 表

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月31日

1. この計算書類は、中小企業の会計に関する基本要領によって作成しています。
2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記
 - (1) 固定資産の減価償却の方法
 - 有形固定資産・・・定率法
 - 無形固定資産・・・定額法
 - (2) 消費税等の会計処理
 - 消費税等の会計処理は税込方式により処理しております。

別紙の通り報告致します。

令和 8年 5月22日

一般社団法人豊岡観光イノベーション

代 表 理 事	二 宮 秀 生
理 事	土 生 田 哉
理 事	村 上 宣 人
理 事	島 津 太 一
理 事	村 瀬 茂 高
理 事	倉 橋 建
理 事	川 上 晃 弘
理 事	高 宮 浩 之

別紙監査の結果、適法正確である事を認めます。

令和 8年 5月15日

監 事	作 花 良 祐
-----	---------

事業の概要

11期目となる2026年度は、6本の柱からなる経営戦略を立てて取り組みます。

1つ目は、「観光協会と連携し、持続可能な観光地経営を実現する」です。データ分析に基づき各地域の課題解決に向けて協働するとともに、観光協会との協議を通じて、各地域が掲げる「目指す姿」の実現に向けた具体的な誘客施策を推進します。

2つ目は、「インバウンド誘客を推進するとともに、高付加価値化・周遊を促進する」です。城崎温泉だけではなく、市内観光地の認知向上を図り、周遊を促進します。あわせて、CRMマーケティング（顧客ロイヤリティ向上に向けた取組み）を推進し、高付加価値旅行者層の獲得、リピーター創出の強化を図ります。さらに、ベジタリアン・ハラールなど食の多様性への対応やローカルガイドの育成を進め、受入環境の充実に取り組みます。

3つ目は、「【国内】観光を起点に、地域との関わりを深める来訪者の創出・拡大」です。メールマーケティングの強化や「豊岡旅幸」キャンペーンの実施により、継続的に地域と関わる来訪者（ファン・リピーター）の育成を推進します。ふるさと納税返礼品「豊岡旅幸券」の寄附者を対象に、インタビューやアンケートを通じた寄附動機・行動分析を行い、顧客との関係性強化と新規顧客の獲得につなげます。加えて、「ネオカルTOYOOKA」を推進し、市民による地域資源の再認識と観光への関心向上を図ります。

4つ目は、「観光DXを推進し、地域事業者の稼ぐ力を引き上げる」です。宿泊施設の予約データを自動収集・分析する「観光DX基盤」を第二世代へ移行したことにより、より詳細な分析が可能となりました。本システムを活用し、宿泊施設・飲食・物産等の観光事業者へ分析結果を提供することで、効率的な経営を支援します。また、先進事例の調査を通じて、その知見を課題解決に活かします。さらに、国籍登録・集計システム「豊岡観光DXパスポートアプリ」の普及及び活用を図り、他地域への展開につなげます。

5つ目は、「インナープロモーションに取り組む」です。市民の観光に対する満足度を可視化し、課題の把握に取り組みます。市広報紙を活用した情報発信や、市内中学校・高等学校への出前講座の実施により、観光を切り口としたシビックプライドの醸成を図ります。また、市民向け事業説明会や事業者向け観光まちづくりセミナーの開催を通じて、当法人の取組みに対する理解促進を図ります。

最後の6つ目は、「組織の基盤強化を進める」です。研修等を通じて職員一人ひとりのスキルアップを図るとともに、収益事業の強化により自主財源の拡大を目指します。

地域の稼ぐ力を引き出す組織として、より一層積極的にチャレンジしてまいりますので、今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

収 支 予 算 書

第 11 期

自 2026年 4月 1日

至 2027年 3月 31日

一般社団法人豊岡観光イノベーション

(一社)豊岡観光イノベーション
 予定損益計算書
 自 2026年 4月 1日
 至 2027年 3月31日

単位:円

科目	金額	備考
I 純 売 上 高		
1) Visit Kinosaki手数料	7,000,000	
2) ツア一等売上高 ・着地型ツアー、体験プログラム ・旅行会社ツアー	15,500,000 22,000,000	
3) ふるさと納税返礼品売上高	13,750,000	
4) 視察売上高	5,000,000	
5) マーケティング売上高	2,600,000	
6) 物販売上高	2,300,000	
7) 会費収入	1,200,000	小計 69,350,000
8) 補助金収入	0	
9) 負担金収入 ・海外誘客推進負担金 ・観光地経営推進負担金 ・機能強化負担金	15,000,000 5,848,000 27,148,000	小計 47,996,000
10) 委託料収入 ・観光地消費拡大推進 ・良好な環境を活用した観光推進業務 ・フラットヨオカ管理運営	8,000,000 8,999,000 436,000	小計 17,435,000
	134,781,000	
II 売 上 原 価		
1) Visit Kinosaki関連経費	2,217,000	
2) ツア一関連経費 ・着地型ツアー、体験プログラム ・旅行会社ツアー	11,612,000 15,499,000	
3) 視察関連経費	2,230,000	
4) 仕入高	1,000,000	
5) 期首商品棚卸高	2,435,000	34,993,000
6) 期末商品棚卸高	800,000	34,193,000
	34,193,000	
	100,588,000	
III 販 売 費 お よ び 一 般 管 理 費		
1) 給料手当	18,898,000	
2) 賞与手当	5,449,000	
3) 役員報酬	1,200,000	
4) 法定福利費	6,024,000	
5) 福利厚生費	500,000	
6) 広告宣伝費	23,000,000	
7) 旅費	1,400,000	
8) 交際費	300,000	
9) 会議費	500,000	
10) 車両費	460,000	
11) 通信費	1,690,000	
12) 水道光熱費	360,000	
13) 租税課税	100,000	
14) 消耗品費	1,500,000	
15) 共益費	240,000	
16) 賃借料	2,232,000	
17) リリース	1,284,000	
18) 保険料	105,000	
19) 支払手数料	5,000,000	
20) 諸会費	100,000	
21) 負担金	600,000	
22) 減価償却費	4,911,000	
23) 委託修費	20,000,000	
24) 研修費	856,000	
25) 委託販売手数料	345,000	
26) 消費税等	1,226,000	98,280,000
	98,280,000	
営 業 利 益	2,308,000	
IV 営 業 外 収 益		
1) 受取利息	70,000	
2) 雑収入	50,000	120,000
	120,000	
V 営 業 外 費 用 息		
1) 受取利息	120,000	120,000
	120,000	
経 常 利 益	2,308,000	
税 引 前 当 期 純 利 益	2,308,000	
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	336,000	
当 期 純 利 益	1,972,000	

報告第9号

豊岡まちづくり株式会社第31期の決算及び第32期の事業計画に関する書類について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり報告する。

令和8年6月11日提出

豊岡市長 門 間 雄 司

豊岡まちづくり株式会社経営状況説明書

令和8年5月25日

豊岡まちづくり株式会社

事業報告

第31期

自 令和 7年4月 1日
至 令和 8年3月31日

事業計画

第32期

自 令和 8年4月 1日
至 令和 9年3月31日

兵庫県豊岡市大磯町1番79号

豊岡まちづくり株式会社

第31期（令和7年度）事業報告

事業概況

令和7年度は、歴史的な物価高による実質購買力の低下で、個人消費が伸び悩む事態となりました。また、大阪・関西万博が開催され訪日外国人観光客の増加がみられたものの、邦人も含め観光客が会場周辺地域へ集中したことにより、靴業界においては開催期間中マイナスの影響を受けました。

事業全体での売上高は対前年9,347千円減の162,601千円となりました。

売上原価は、対前年5,845千円減の83,310千円で、販売費及び一般管理費について、アトリエショップ部門、アトリエネット部門及びスクール部門での広告宣伝費の減により、全体で対前年7,333千円減の85,357千円となり、それによって営業利益は、部門合計で対前年3,830千円増のマイナス6,067千円となりました。これを主な部門についてみますと、次のとおりです。

（アトリエショップ部門）

大阪・関西万博ひょうごフィールドパビリオンでの革小物製作体験に延べ167名参加、スクール生と合同で行った商品開発において2型を商品化、店頭で気軽にできる刻印体験には1月からの開始3ヶ月で117名の参加を得ました。また、これまで行ってきたかばん屋めぐりをアップデートしたカバストコレクションを開催し、関連動画15万回再生を記録。施設とカバンストリートの双方の視点から魅力の創出と発信に努めました。しかしながら、通年の来店者の減少及び特に冬場の悪天候による来店者の大幅な減少が売り上げに大きく影響しました。

売上高は64,895千円と前年同比5,385千円の減少となりました。営業利益はマイナス3,413千円と前年同比1,214千円の減少となりました。

（アトリエネット部門）

令和7年度は、前年度に続きメールマガジン登録促進による顧客増を目指し、期間限定の登録キャンペーンを複数回実施しました。登録者数は1万人を超え、顧客様からの安定した受注を確保しています。また、9年度にかけて販売管理費の大幅な削減を進める計画を立て、7年度はgoogle 広告の効果検証を実施し、広告宣伝費を対前年50%以下に抑えています。

売上高は81,008千円と前年同比4,464千円の減少となりましたが、営業利益は1,789千円で前年同比3,942千円の増加となりました。

(スクールⅠ部門)

令和7年度より定員を10名とし、東京から福岡まで全国から8名の生徒が入校しました。年度末には財布特別講座も実施し収入を得ましたが、2名の定員割れが大きく響きました。また講師の引継ぎのための3人体制で、スクールⅡ部門との兼務をしましたが人件費が多くかかりました。

売上高は13,783千円、前年同比2,412千円の減少となりました。営業利益はマイナス4,357千円で前年同比1,187千円の増加となりました。

開校12年目を終え110数名の若者が豊岡を中心に巣立って行きました。アルチザンスクールでの熱い思いを持って今後も活躍されることを期待しています。

(スクールⅡ部門)

令和7年度より、豊岡K-site合同会社より靴縫製者養成コースを引継ぎ、運営を開始いたしました。前期と後期の2期運営し、各期8名の定員の所、前期5名、後期6名の計11名が入校しました。前期3名、後期2名の定員割れが主な要因となり、売上高は2,913千円、営業利益はマイナス84千円となりました。

昨年度修了生11名の内、5名が豊岡の企業へ就職しました。今後も豊岡を中心に就職して頂く事で、豊岡市の活性化につながるよう努めます。

当社も会社設立から30年が経ち、また、アルチザン事業を立ち上げて12年が経過しました。ここまで来られたのも、偏に株主の皆様や関係各位のご理解とご協力のお蔭と感謝申し上げます。今後も更なる業績向上を目指し、役職員一丸となって邁進して参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

事業（営業）報告資料

1. 事業（営業）実績

◇売上高の推移

（単位：千円）

区 分	第28期 (令和4年度)	第29期 (令和5年度)	第30期 (令和6年度)	第31期 (令和7年度)
アルチザン事業	162,272	164,150	171,948	162,601
内訳	アトリエ	143,870	146,634	155,753
	スクール	18,402	17,516	16,195
学校給食配送事業	14,035	14,850	0	0
合 計	176,307	179,000	171,948	162,601

◇営業成績の推移

（単位：千円）

区 分	第28期 (令和4年度)	第29期 (令和5年度)	第30期 (令和6年度)	第31期 (令和7年度)
営業利益	6,738	118	△ 9,897	△ 6,067
経常利益	7,253	219	△ 9,666	△ 5,296
当期純利益	5,381	8	△ 9,848	△ 5,507
総資産	148,787	147,360	135,074	135,068
純資産	123,483	121,655	111,806	106,299

2. 会社の概要（現況）

(1) 資本金

資 本 金	9 1, 8 0 0千円
-------	--------------

(2) 株式の状況

発行済株式総数	1, 8 3 6 株
内 豊岡市保有分	9 1 8 株
内 豊岡商工会議所保有分	4 1 4 株

(3) 役員の状況

	役 職 名	役 員 名
1	代表取締役	アダチ テツヒロ 足立 哲宏
2	取 締 役	キヌガワ ヒデオ 衣川 英生
3	取 締 役	ウエムラ ケンジ 植村 賢仁
4	取 締 役	ニシダ マサキ 西田 正樹
5	取 締 役	ミヤシタ エイジ 宮下 栄司
6	取 締 役	サカモト ナルヒコ 坂本 成彦
7	取 締 役	ウノ タカヤ 卯野 隆也
8	取 締 役	キヌガワ カツノリ 衣川 克典
9	取 締 役	ウノ ユウヤ 卯野 祐也
10	監 査 役	ノムラ リョウタ 野村 亮太
11	監 査 役	スズキ マサヒロ 鈴木 政宏

(4) 社員（従業員）の状況

区 分	人数	構成
社 員	10	男 7名、女 3名
パート	1	男 0名、女 1名
合 計	11	

貸借対照表

令和 8年 3月31日 現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 112,547,930】	【流動負債】	【 28,769,267】
現金・預金	92,499,487	買掛金	12,513,524
売掛金	11,799,580	未払費用	32,483
商品・製品	6,946,793	未払金	1,325,479
材 料	83,543	未払法人税等	211,000
貯 蔵 品	525,907	未払消費税等	1,816,600
立 替 金	43,277	前 受 金	12,700,000
仮 払 金	750,000	預 り 金	170,181
仮 払 税 金	16,343		
貸倒引当金	△117,000		
【固定資産】	【 22,521,017】		
[有形固定資産]	[22,191,081]	負債合計	28,769,267
建 物	7,452,686	純 資 産 の 部	
建物附属設備	3,778,715	【株 主 資 本】	【 106,299,680】
構 築 物	1	[資 本 金]	[91,800,000]
車 両 運 搬 具	1,798,543	[利 益 剰 余 金]	[14,499,680]
工 具 器 具 備 品	8,860,335	(その他利益剰余金)	(14,499,680)
土 地	300,801	繰越利益剰余金	14,499,680
[無形固定資産]	[299,936]	(うち当期純損失)	(5,507,318)
電 話 加 入 権	299,936		
[投資その他の資産]	[30,000]		
出 資 金	30,000	純 資 産 合 計	106,299,680
資 産 合 計	135,068,947	負債・純資産合計	135,068,947

損 益 計 算 書

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

(単位：円)

科 目	金	額
【純 売 上 高】		
アルチザン事業収入	162,601,196	162,601,196
【売 上 原 価】		
期 首 棚 卸 高	4,779,975	
仕 入 高	85,561,010	
合 計	90,340,985	
期 末 棚 卸 高	7,030,336	83,310,649
売 上 総 利 益		79,290,547
【販売費及び一般管理費】		85,357,796
営 業 損 失		6,067,249
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	106,216	
受 取 配 当 金	400	
雑 収 入	664,315	770,931
経 常 損 失		5,296,318
税引前当期純損失		5,296,318
法人税、住民税及び事業税		211,000
当 期 純 損 失		5,507,318

販売費及び一般管理費

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

(単位：円)

科 目	金	額
給 料 手 当	37,036,338	
業 務 委 託 費	4,129,831	
法 定 福 利 費	5,960,352	
福 利 厚 生 費	1,441,103	
広 告 宣 伝 費	5,978,779	
運 賃	2,198,409	
旅 費 交 通 費	657,625	
教 材 費	944,594	
車 輛 管 理 費	171,528	
通 信 費	312,087	
水 道 光 熱 費	1,533,665	
租 税 公 課	493,800	
消 耗 品 費	2,357,999	
事 務 費	925,631	
賃 借 料	1,136,375	
減 価 償 却 費	4,275,987	
修 繕 費	170,342	
保 険 料	562,704	
支 払 手 数 料	13,699,379	
負 担 金	181,888	
リ ー ス 料	265,481	
交 際 費	249,932	
会 議 費	21,585	
寄 附 金	1,000	
雑 費	633,382	
貸倒引当金繰入	18,000	85,357,796
合 計		85,357,796

部 門 別 損 益

自令和 7年 4月 1日
至令和 8年 3月31日

(単位：円)

	総 合 計	アルチザン・ アトリエ ショップ部門	アルチザン・ アトリエ ネットショップ部門	アルチザン・ スクール①部門	アルチザン・ スクール②部門
I 売 上 高	162,601,196	64,895,490	81,008,341	13,783,685	2,913,680
II 売 上 原 価	83,310,649	37,015,056	45,688,093	607,500	0
III 売 上 総 利 益	79,290,547	27,880,434	35,320,248	13,176,185	2,913,680
IV 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	85,357,796	31,294,431	33,531,116	17,533,700	2,998,549
V 営 業 利 益	△ 6,067,249	△ 3,413,997	1,789,132	△ 4,357,515	△ 84,869

株主資本等変動計算書

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月31日 (単位：円)

	株 主 資 本				純資産合計
	資 本 金	利 益 剰 余 金		株主資本合計	
		繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	91,800,000	20,006,998	20,006,998	111,806,998	111,806,998
当期変動額					
当期純利益		△ 5,507,318	△ 5,507,318	△ 5,507,318	△ 5,507,318
当期変動額合計	0	△ 5,507,318	△ 5,507,318	△ 5,507,318	△ 5,507,318
当期末残高	91,800,000	14,499,680	14,499,680	106,299,680	106,299,680

個 別 注 記 表

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

1. この計算書類は、中小企業の会計に関する基本要領によって作成しています。

2. 重要な会計方針

(1) 資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産・・・最終仕入原価法による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産・・・定額法

無形固定資産・・・定額法

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権について
法人税法の規定による法定繰入率により計上しています。

(4) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引
については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式により処理しております。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 30,116,040円

(2) 国庫補助金等で取得した固定資産について、取得価額から次の圧縮記帳額を
控除しております。(第18期、第19期及び第20期)

土地	26,066,398円
建物	71,248,946円
建物附属設備	25,744,945円
その他固定資産	15,864,801円
計	138,925,090円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

普通株式 当期末発行済株式数 1,836株

別紙の通り報告致します。

令和 8年 5月25日

豊岡まちづくり株式会社

代表取締役社長	足立哲宏
取締役	衣川英生
取締役	植村賢仁
取締役	西田正樹
取締役	宮下栄司
取締役	坂本成彦
取締役	卯野隆也
取締役	衣川克典
取締役	卯野祐也

別紙監査の結果、適法正確である事を認めます。

令和 8年 5月12日

監査役	野村亮太
監査役	鈴木政宏

監査報告書

豊岡まちづくり株式会社 様

監査の結果

私監査役は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの第31期事業年度に係る計算書類及びその附属明細書に関して、本監査報告書を作成し、以下の通り報告致します。

尚、当会社の監査役は、定款第4条の定めるところにより、監査の範囲が会計に関するものに限定されている為、事業報告を監査する権限は有しておりません。

1. 監査の方法及びその内容

私は、取締役等から会計に関する職務の状況を聴取し、会計に関する重要書類等を閲覧致しました。また、会計帳簿又はこれに関する資料を調査し、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書）及びその附属明細書について検討致しました。

2. 監査の結果

計算書類及びその附属明細書は、会社の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適法かつ正確に表示しているものと認めます。

令和8年5月12日

監査役

野村亮太

鈴木正宏

第3 2期（令和8年度）事業計画及び収支計画

1 計画概要

令和8年度の当社の事業としましては、アルチザン事業のアトリエショップ部門、アトリエネット部門、鞆職人養成のスクールI部門、及び鞆縫製者養成コースのスクールII部門の4部門に取り組みます。

また、本年度も東京での展示会などを通して、基幹事業である豊岡鞆を引き続き全国へ情報発信すると共に、更なる集客・販売に向けて、鞆企業の方々と連携し、産地ブランドの強化に努めて参ります。

なお、税制改正による「年収の壁」の178万円への引き上げなど国民の手取り収入に一部変化があるものの、円安・物価高騰など引き続き厳しい状況にあるため、慎重に対応し取り組んで参ります。

2 部門別計画

（アトリエショップ部門）

スクール合同企画商品2型のリリース、店舗オリジナル商品 Waltz および財布類4型のリニューアルリリースを控えており、この話題と並行しながら新商品開発を進め、店舗でしか手に入らない商品のリリースと新規顧客の獲得を継続して行います。また、カバンストリートの魅力を発信できるイベントの開催も視野に、店舗への来店動機となる企画を店舗ベースと地域ベースで計画、運営してまいります。

純売上高としましては、75,000千円を見込んでおります。また、販売費及び一般管理費は、28,949千円と見込み、営業利益は2,851千円と想定しております。

（アトリエネット部門）

令和8年度は、引き続き顧客増に向けた取り組みを継続して行い、お客様に満足いただけるサービスやキャンペーンを実施いたします。また、9年度にかけて販売管理費の大幅な削減を目標とし、社外に依存する業務の多くを内製化することで、さらなるコスト削減を実施いたします。そのほか施設全体として、PR・増収に繋がるWEB関連の施策を必要に応じて実施いたします。

純売上高は、90,500千円を見込んでおります。また、販売費及び一般管理費は36,823千円と見込み、営業利益は1,549千円と想定しております。

(スクールⅠ部門)

令和8年度のアルチザンスクールには、定員10名に対し、全国各地から10名が入校しました。1年後には豊岡の靴業界の戦力になっていくものと期待しております。

収益につきまして、授業料等収入は15,800千円となり、販売費及び一般管理費は14,653千円と見込んでおります。よって、営業利益は1,147千円と想定しております。

(スクールⅡ部門)

令和8年度より、定員を前期10名、後期10名に変更しました。靴業界への就職が期待できることと同時に、授業料収入増も見込めると考えております。

収益につきまして、授業料等収入は4,344千円、販売費及び一般管理費は4,065千円と見込んでおります。よって、営業利益は279千円と想定しております。

3 総合収支計画

総合では、オリジナル商品の積極的な展開及び大阪・関西万博閉幕後の観光客の回帰を見込み、純売上高は全体で、185,644千円と想定しております。売上原価は95,328千円と見込み、販売費及び一般管理費は84,490千円と見込んでおります。よって、営業利益は5,826千円を想定しております。

全体はもちろん特にスクール運営におきまして、定員の10名に到達、また講師は2人体制となったため、昨年度と比較して改善が予想されます。昨年度に引き続き募集方法の改善をすすめ、商品開発にも力を入れていき、将来を見据えた運営に取り組むことで目標以上の利益が確保できるよう役職員一丸となって邁進してまいります。

株主の皆様におかれましても、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第32期 令和8年度収支事業計画

豊岡まちづくり株式会社

税抜(千円)

科 目	第31期	第32期						備 考
	総 合	対前期 増減	総合(合計)	アトリエ ショップ部門	アトリエ ネット部門	スクール Ⅰ部門	スクール Ⅱ部門	
純売上高	162,601	23,043	185,644	75,000	90,500	15,800	4,344	
売上原価	83,310	12,018	95,328	43,200	52,128	0	0	
販売管理費	85,358	△ 868	84,490	28,949	36,823	14,653	4,065	
営業利益	-6,067	11,893	5,826	2,851	1,549	1,147	279	
営業外収益	771	△ 771	0	0	0	0	0	
営業外費用	0	0	0	0	0	0	0	
経常利益	-5,296	11,122	5,826	2,851	1,549	1,147	279	
特別利益	0	0	0	0	0	0	0	
特別損失	0	0	0	0	0	0	0	
税引前純利益	-5,296	11,122	5,826	2,851	1,549	1,147	279	

報告第10号

株式会社日高振興公社第32期の決算及び第33期の事業計画に関する
書類について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり報告する。

令和8年6月11日提出

豊岡市長 門 間 雄 司

決算等の状況の報告

株式会社 日高振興公社

株式会社日高振興公社 第32期 事業報告

1 事業の経過および成果

当事業年度における国内経済をみると、緩やかな回復基調を維持しつつも、物価高と海外リスクに揺れた一年でした。賃上げが実施される一方で、食品や外食費、特に米価格などの物価上昇が個人消費に与える影響に十分注意する必要がありました。特に後半は中東情勢による原油高が日本経済に影響し、エネルギー価格への警戒が強まりました。

令和7年度の神鍋高原の夏季（7・8月）入込数は約17万9千人（前期約14万6千人）、前期比123%となり、特に7月4日～6日開催の神鍋高原フェス「まんまる」により、7月の売上が前期比195%となるなど、大きな効果がありました。また、冬季（12月～3月）も前期同様、降雪に恵まれ、神鍋高原スキー場は約9万2,600人（前期約9万6,500人）、前期比96%となり、特に1月の売上は前期比115%となりました。

さらに、10月よりPOSレジ（スマレジ）を導入し、クレジットカード・QRコード決済等のキャッシュレス決済に幅広く対応しました。さらにIT導入補助金を活用し、導入コストを抑えながら業務改善を推進しました。11月末には道の駅改修工事が始まり、2月下旬から売店は仮設店舗での営業に移行するなど、次期に向けた大きな変革期となりました。

このような状況の下、当社は「地域と共に創る個性ある道の駅」を目指し、取り組んでまいりました。

従業員の職務能力向上を図るため、兵庫県道の駅連絡会や豊岡市商工会、豊岡市などによる経営コンサルタントのアドバイスを受け、商品開発や業務改善等に努めました。また、豊岡市、豊岡観光イノベーション、日高神鍋観光協会と共に観光庁の補助事業の地域魅力向上事業にも取り組み、「KANNABE ROOTS」プロジェクトを発足させ、地域活性化へ向け活動いたしました。

また、毎月開催している定例会議では、部門ごとに経費実態（部門別管理表・ランニングコスト推計表等）を月次検討し、部門別の課題の抽出を行いました。

さらに、イベント計画・商品開発・設備投資計画等、勉強会を適時実施しました。特に、当事業年度も経費削減、労務改善（就業規則・賃金等）の実施、改修工事に向けた運営等の検討についても全従業員で取り組みました。

○来客数

道の駅「神鍋高原」 136,121人（前期比：112% 前期差：14,521人）
神鍋温泉ゆとろぎ 64,713人（前期比：103% 前期差：1,761人）

結果、当事業年度における業績は、

売上高 258,981千円（前期比：112% 前期差：28,267千円）
営業利益 3,514千円（前期比：122% 前期差：643千円）
経常利益 13,459千円（前期比：269% 前期差：8,459千円）
当期純利益 10,945千円（前期純利益：4,788千円）
（前期比：229% 前期差：6,157千円）

（1）道の駅「神鍋高原」

① 売店部門

当事業年度も物価高騰により、お土産物は年に2度の価格改定がある商品も多数ありま

した。また、農産物では4月頃は降水量が少なく、山菜の出荷量が減少し、7・8月は酷暑による蔓枯れでスイカの出荷量が減少するなど、気候が農作物に与える影響が年々大きくなり、安定した出荷が難しくなっています。

一方で、10月よりPOSレジ(スマレジ)を導入し、前期はPayPayのみでしたが、当期はクレジットカード、QRコード、電子マネー等、各種キャッシュレス決済に対応し、利便性が大幅に向上しました。また、客単価アップへの改善や冬季は積雪が多く、インバウンド客への対応ができました。

お土産物ではPB商品のキャベツチップ、日高みそナッツ煎餅、但馬のはちみつフィナンシェ、神鍋田舎蕎麦、瓦煎餅など、年間を通じて安定した販売実績を上げるなど、自社製品が好調でした。また、ほんまもん神鍋(とち餅)に次ぐ和菓子として、4月からよもぎ大福を販売し、年間約2万個、3,336千円を売上げました。

4月は第4回道の駅の日イベント、6月は第17回神鍋高原キャベツまつり、8月は第10回神鍋高原スイカまつり等を実施し、地元農産物・特産品の宣伝販売を実施しました。

7月は神鍋高原で初となる神鍋高原フェス「まんまる」が7月4日から6日まで開催され、3日間で約7,285千円の売上があり、7月は前期比199%でした。

2月下旬から道の駅改修工事に伴い、仮設店舗へ移動しました。案内表示や誘導看板、のぼり旗など整備し、週末には仮設店舗横にテントを張り試食販売を実施し、来客への周知に注力しました。

さらに、下記の商品を道の駅「神鍋高原」のおすすめ商品と位置付け、ポスターやSNS等と連動し、他店舗との差別化を図りました。

○ほんまもん神鍋	年間販売数：10,957個	売上金額：7,670千円
○神鍋高原スイカ	年間販売数：3,764個	売上金額：6,459千円
○豊岡ぶどう	年間販売数：5,047個	売上金額：4,515千円
○お米	年間販売数：998個	売上金額：4,314千円
○神鍋高原キャベツチップ	年間販売数：15,895個	売上金額：3,419千円
○よもぎ大福	年間販売数：20,339個	売上金額：3,336千円
○但馬のはちみつ	年間販売数：925個	売上金額：2,907千円

※年間売上金額の多い順番に並べています。

② 飲食部門

当事業年度も原材料費の高騰による価格転嫁の難しさの中で、平日は十割蕎麦、土日祝日はランチビュッフェの2本柱で事業を展開しました。また、経営改善の為、コンサルタントの指導により、料理内容及び仕入れの見直し、客単価や粗利益率の向上を図りました。

平日の利用促進として、殿さんそばの製法を受け継ぎ、当期より手打ち十割そばを「神そば」として販売し、年間販売数5,084個、売上金額8,090千円となり、販売の主軸となりました。喫茶メニューとして山陰海岸ジオパーク内にあるヒラヤミルクを使用したソフトクリームに但馬のはちみつや直売所と連携し、季節のフルーツを使用したソフトクリームも大変好評でした。

土日祝日のランチビュッフェの利用客数は前年並みでしたが、食材費高騰により、価格改定を行い、客数16,437名(前期比98%)、売上金額22,952千円(前期比109%)となり、前期より客数365名減少、売上金額1,860千円増加となりました。また、当期もGW期間、夏休み・お盆期間、スキーシーズンは夜営業を行い、顧客満足度向上に努めました。

季節限定のイベントとして、7月・8月に「全但バス神鍋線利用促進イベント」の「神鍋Beer Night」を開催し、神鍋高原フェス「まんまる」の影響もあり、客数314名、売上金額1,062千円の利用がありました。2月の節分には前年好評の神鍋清流サーモンを使った恵方巻を108本販売し、大変好評でした。

新たな取り組みとして、コンサルタントにアドバイスを受け、日高みそを使用した「但馬ピーマンみそ」の販売や8月の大学生合宿の朝食・夕食利用、12月の年越しそばの予約販売を行いました。

広報として、HP・SNS等の発信強化やデジタルサイネージによりメニュー紹介、タッチパネル式券売機のレイアウト変更など、利用者の利便性向上に努めました。

年間を通して、季節感、イベント感をテーマに、SNS等での利用者の声を現場に反映しながら、サービス面の強化に繋げました。

(2) 神鍋温泉ゆとろぎ

当事業年度も継続して、衛生管理を徹底し、大事故もなく、通常営業をすることができました。入館者はスノーシーズンが好調であり、客数64,713名（前期比103%）、売上金額51,650千円（前期比105%）となり、前期より客数1,761名増加、売上金額2,228千円増加となりました。

当事業年度も物価高騰により、経営を圧迫していた燃料費を削減する為、木質ペレットの使用量を増やす予定でしたが、ボイラーの度重なる故障により、ガス使用量が増え、結果的に燃料費が8,498千円（前期比106%）となり、499千円増加しました。併せて、老朽化により、修繕費1,705千円（前期比152%）となり、584千円増加しました。また、節約できる部分として、水道光熱費・衛生費10,202千円、前期比97%、342千円改善しました。

スキー場は前年並みに積雪量も多く、営業日数79日（前期比105%）となり、「スキーリフト券利用者割引」の利用者も7,477名（前期比122%）と前年より大幅に増加しましたが、グリーンシーズンの「神鍋高原キャンプ場利用者割引」は3,991名（前期比71%）と利用者が大幅に減少しました。また、隣接している「フェアフィールド・バイ・マリ奥特・兵庫神鍋高原利用者割引」は2,654名（前期比136%）となり、1月から3月のスノーシーズンに利用者が増加しました。定番の「JAFカード会員割引」6,048名（前期比83%）、「あいカード会員割引」3,831名（前期比84%）など、提携した割引サービスには一定の効果がありましたが、併せて協定割引の見直しも行いました。

入浴以外の売上金額は6,979千円、前期比117%、1,025千円増加しました。新たな取り組みとして、ワインコーナーの設置やサウナグッズ、Tシャツ等の販売ブースの拡大、また、豊岡市民農園と連携し、カブトムシの飼育・販売を行いました。

露天風呂について、毎月、四季を楽しむ季節湯を実施し、4月には但東チューリップまつりと連携したチューリップ湯、6月には神鍋よもぎ湯、12月はゆず湯を開催しました。3月は特別回数券の販売など、常連客やサウナで利用者が多い若者の利用促進につなげました。

決 算 報 告 書

第 3 2 期

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月 31日

株式会社 日高振興公社

兵庫県豊岡市日高町栗栖野 5 9 - 1 3

貸借対照表

(単位：円)

株式会社 日高振興公社

令和 8年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 43,577,846】	【流動負債】	【 19,023,557】
現金及び預金	35,941,921	買掛金	1,494,993
売掛金	3,356,176	受託未払金	3,092,396
商 品	1,581,607	未 払 金	10,530,530
原 材 料	587,367	預 り 金	229,338
貯 蔵 品	1,560,979	預 り 敷 金	100,000
未 収 入 金	266,788	法人税等充当金	2,511,200
前 払 費 用	283,008	未 払 消 費 税	1,065,100
【固定資産】	【 4,870,962】	負債の部計	19,023,557
(有形固定資産)	(3,294,005)	純資産の部	
建 物	1,881,436	【株主資本】	【 34,546,668】
建物付属設備	280,795	[資 本 金]	[36,000,000]
車両運搬具	270,362	[利 益 剰 余 金]	[Δ1,453,332]
工具器具備品	811,412	利 益 準 備 金	9,000,000
一括償却資産	50,000	(その他利益剰余金)	(Δ10,453,332)
(無形固定資産)	(1,426,957)	繰越利益剰余金	Δ10,453,332
リサイクル預託金	7,430	(うち当期純利益)	(10,945,357)
ソフトウェア	1,419,527	純資産の部計	34,546,668
(投資その他の資産)	(150,000)	負債・純資産の部計	53,570,225
保 証 金	150,000		
【繰延資産】	【 5,121,417】		
開 発 費	5,121,417		
資産の部計	53,570,225		

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 8年 3月31日

科 目	金	額
【売 上 高】		
売 店 売 上	155,321,011	
市事業委託料等	3,671,384	
レストラン売上	47,625,633	
温 泉 売 上	52,363,092	258,981,120
【売 上 原 価】		
期首棚卸高	1,353,084	
仕 入 高	114,388,304	
材 料 費	17,023,976	
合 計	132,765,364	
期末棚卸高	2,168,974	130,596,390
売 上 総 利 益		128,384,730
【販売費及び一般管理費】		124,870,753
営 業 利 益		3,513,977
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	20,094	
雑 収 入	9,924,557	9,944,651
経 常 利 益		13,458,628
【特 別 利 益】		
国 庫 補 助 金	3,465,570	3,465,570
【特 別 損 失】		
固 定 資 産 圧 縮 損	3,465,570	3,465,570
税引前当期純利益		13,458,628
法人税等充当額		2,513,271
当 期 純 利 益		10,945,357

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 8年 3月31日

科 目	金 額	額
役員報酬	5,411,000	
給料手当	33,784,845	
福利厚生費	6,994,946	
雑給	14,329,178	
シルバー委託費	2,200,611	
広告宣伝費	4,928,729	
運賃	106,910	
外注費	1,122,100	
燃料費	8,662,077	
衛生費	5,661,854	
業務委託費	3,000,000	
一括資産償却費	211,230	
水道光熱費	13,538,718	
会議費	68,824	
事務費	1,630,678	
消耗品費	4,284,642	
地代家賃	38,100	
支払保険料	625,959	
修繕費	2,462,861	
租税公課	5,381,400	
減価償却費	2,095,376	
接待交際費	745,713	
旅費交通費	359,177	
通信費	380,289	
支払手数料	4,908,755	
賃借料	1,068,196	
諸会費	396,215	
繰延資産償却費	213,583	
購読費	51,700	
雑費	207,087	
合 計		124,870,753

株主資本等変動計算書

株式会社 日高振興公社

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月31日

	株 主 資 本						株 主 資 本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	自 己 株 式				
当期首残高	36,000,000			9,000,000	Δ21,398,689		23,601,311			23,601,311
当期変動額										
当期純利益					10,945,357		10,945,357			10,945,357
当期変動額合計					10,945,357		10,945,357			10,945,357
当期末残高	36,000,000			9,000,000	Δ10,453,332		34,546,668			34,546,668

	利 益 剰 余 金 の 内 訳		
	利 益 準 備 金	繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 合 計
当期首残高	9,000,000	Δ21,398,689	Δ12,398,689
当期変動額			
当期純利益		10,945,357	10,945,357
当期変動額合計		10,945,357	10,945,357
当期末残高	9,000,000	Δ10,453,332	Δ1,453,332

個 別 注 記 表

株式会社 日高振興公社

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月 31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・商品・貯蔵品……最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……平成10年4月1日以後に取得した建物及び平成28年4月1日以後に

取得した建物附属設備・構築物は定額法、それ以外は定率法

無形固定資産……定額法

収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理……税込方式で計上している。

2. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額……37,911,821円

無形固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額……2,132,159円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における発行済株式の数……720株

当事業年度末日における自己株式の数……0株

4. 1 株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額……47,981円48銭

1株当たりの当期純利益……15,201円88銭

監 査 報 告

私監査役は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの第32期事業年度における貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注表、事業報告および附属明細書を監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

令和 8年 5月19日

監 査 役 太田垣 健二

監 査 役 玉置 孝至

報 告 書

上記のとおりご報告申し上げます。

令和 8年 6月 2日

株式会社 日高振興公社

代表取締役社長 岡森 且哉

専務取締役 池田 敬一

取 締 役 柳沢 和男

取 締 役 西田 清

取 締 役 村上 勝幸

取 締 役 岡藤 泰明

(単位：千円)

2 事業実績

(1) 事業別の売上高 (単位：千円)

施設名	売店部門	飲食部門	温泉部門	市受託料	合計
道の駅「神鍋高原」	155,011	47,626		3,671	206,308
神鍋温泉ゆとろぎ			52,363		52,363
農産物加工所	310				310
合計	155,321	47,626	52,363	3,671	258,981

(2) 売上高の推移 (単位：千円)

区分	第28期	第29期	第30期	第31期	第32期
売店部門	107,367	117,447	117,441	142,941	155,011
飲食部門	21,622	24,576	30,270	33,790	47,626
温泉部門	39,483	37,343	37,857	49,516	52,363
市受託料	4,024	4,227	4,327	4,467	3,671
合計	172,496	183,593	189,895	230,714	258,981

(3) 営業成績、財産状況の推移 (単位：千円)

区分	第28期	第29期	第30期	第31期	第32期
経常利益	2,302	△2,266	△5,972	5,000	13,459
当期純利益	1,572	△2,476	△6,183	4,788	10,945
総資産	72,338	70,580	35,207	44,147	53,570
純資産	27,472	24,996	18,813	23,601	34,547

3 当社の現状

(1) 資本金の推移

(単位：千円)

区分	当期末	前期末	増減
資本金	36,000	36,000	0

(注) ① 平成6年4月28日

発行株式数 600株 1株につき50,000円

② 平成6年8月11日

発行株式数 120株 1株につき50,000円

(2) 株式の状況

① 株式数(発行済み株式の総数) 720株

② 当期末株主数 13名

(3) 従業員の状況（令和8年3月31日現在）

（単位：人）

区 分	当 期	前 期 末	増 減
男 性	11	6	5
女 性	17	16	1
合 計	28	22	6

(4) 業務の状況

施 設 名	業 務 内 容
道の駅「神鍋高原」	売店(農産物直売所含む)、レストランの経営管理
神鍋温泉ゆとろぎ	温泉入浴の経営管理
農産物加工所	特産品の加工及び施設管理

(5) 取締役ならびに監査役

	役 職 名	氏 名
1	代 表 取 締 役	岡 森 且 哉
2	専 務 取 締 役	池 田 敬 一
3	取 締 役	柳 沢 和 男
4	取 締 役	西 田 清
5	取 締 役	村 上 勝 幸
6	取 締 役	岡 藤 泰 明
7	監 査 役	太 田 垣 健 二
8	監 査 役	玉 置 孝 至

4 対処すべき課題

当社は、以下の点を主な経営課題と捉えております。

- ① 累積欠損金の解消
- ② 働き方改革と人材育成
- ③ 粗利益率向上
- ④ インバウンド誘客と創生連携
- ⑤ 老朽設備の計画的更新

【第33期事業計画（2026年度）】

基本方針

- ・「累積欠損金の完全解消」による財務健全化の達成
- ・「道の駅リニューアル後の新施設を最大活用」した収益拡大への転換
- ・「本業の稼ぐ力強化（営業利益率 6.0%以上の実現）」
- ・「人件費率・原価率の継続的改善」による持続的黒字経営の確立

目標数値（KPI）

指標	目標値	備考
売上高	2億7,711万円（前期比107.0%）	全部門増収・リニューアル後8月～フル稼働
営業利益率	6.0%以上	本業の稼ぐ力強化（補助金依存からの脱却）
経常利益率	6.4%以上	営業外収益は補助金を見込まず
人件費率	22%台以下	繁忙シフト管理精緻化・シルバー委託活用（現状24.2%）
売上総利益率	52%以上	原価率49%以下（仕入コスト適正化・ロス削減）
累積欠損金	完全解消（0円）	△10,453千円→ゼロへ ★最優先財務目標

主要施策

【Ⅰ】売上拡大戦略

(1) 売店部門（目標：163,536千円）

- ・リニューアル新売場でのPB商品陳列刷新・高付加価値商品ラインナップ強化
- ・農産物直売所の仕入先・品目拡充（第32期計画比87%の反省を踏まえ計画達成を確実に）
- ・売店¥1,629→¥1,700への客単価向上（高粗利商品の重点配置）
- ・SNS・EC販売の継続強化

(2) レストラン部門（目標：56,811千円）

- ・リニューアル新施設によるランチビュッフェの質・回転率向上
- ・ディナービュッフェ期間限定営業の確立・平日客単価の底上げ
- ・神そばを年間主力として確立、更なるファン作り。テイクアウト・予約弁当の拡充
- ・アグリガーデンプロデューサー招致による更なる食の魅力向上（目標飲食客単価¥1,250）

(3) 温泉部門（目標：53,114千円）

- ・サウナの魅力PR、滞在時間増での質向上でリピーター獲得
- ・提携割引の見直し（効果低い協定の廃止・高効果協定の拡充）で収益性を改善
- ・回数券の積極販売によるキャッシュフローの安定化（目標客単価¥800）
- ・温泉×飲食の組み合わせ利用促進（セット割引・食事後温泉プラン）

【Ⅱ】コスト最適化戦略

- ・人件費率 22%台への改善：繁閑に応じたシフト管理の精緻化・シルバー委託の活用拡大（現状 24.2%→22%台）※シフト管理ソフト導入にて時間帯でのピンポイントシフトを活用
- ・支払手数料 Δ10%以上削減：決済内容の見直し・再交渉（現状 4,909 千円→目標 4,400 千円以下）
- ・光熱費削減の継続：改修後の新設備（ボイラー更新等）による効率向上（現状 13,539 千円→13,500 千円以下）
- ・仕入先複数社比較・食材ロス削減で売上総利益率 49.6%→52%以上へ
- ・不要なリース・賃借料の見直し（第 32 期比 Δ△5%目標）

【Ⅲ】集客・販促戦略

- ・神鍋イチョウ並木まつり（10 月下旬～12 月初旬）でリニューアルオープンと同時に「神鍋の魅力」を全力発信
- ・わんぱくテラスにてペット愛好家の誘客
- ・SNS 運用継続強化（週 2 回以上投稿・イベント情報・新商品配信）
- ・地域限定旅行業資格（令和 6 年取得）を活かした体験型旅行プランの造成・販売
- ・旅行会社・バス会社向け団体プラン平日予約団体獲得。（温泉+飲食+体験）の拡充
- ・キャッシュレス決済の安定運用による顧客利便性向上と客単価向上の継続

【Ⅳ】設備投資・リスク管理

- ・道の駅リニューアル後の設備管理体制の確立（ボイラー等の計画保守・予防保全）
- ・年 2 回の全館点検の実施（事前故障リスク対応・修繕費の計画的抑制）
- ・スマレジ（POS）の安定運用・**データ活用**による販売管理の高度化
- ・改修後設備の減価償却計画の確立（費用対効果の継続的管理）

【年度スケジュール】

四半期	重点テーマ
4～7 月	改修工事期：仮設店舗での売上最大化（目標前期比 70%）、費用徹底管理、リニューアル準備（新メニュー開発・スタッフ研修）、「イチョウ並木まつり」に向けた集客企画完成。インフルエンサー活用の PR 実施
8～9 月	リニューアルグランドオープン：新施設フル稼働開始、飲食部門の本格拡大、全部門リニューアル効果の最大化、年間売上の約 16%が集中する 8 月を最重要月と位置付け
10～12 月	秋観光シーズン強化・ギフト商戦：農産物直売所の秋出荷最大化、ギフトカタログ販売強化、年越しそばの販売拡大、年末設備点検・メンテナンス実施
1～3 月	冬季集客強化・春商戦準備：スキー場連携による温泉集客促進、回数券・定期利用の促進、翌期第 34 期春商戦の準備・WEB 販売・リフト券連携。レストラン 夜営業開始

【まとめ】

第 33 期は、道の駅リニューアルを最大のチャンスとして捉え、「累積欠損金の完全解消」「営業利益率 6.0%以上の実現」「売上高 2 億 7,711 万円の達成」を三大目標とし、改修工事期（4～7 月）の売上低迷を最小化しながら、リニューアル後（8 月～）の成長を最大化する経営を実行します。

この目標達成に向け、経営・現場一体となった実行計画を徹底し、令和 9 年度（第 34 期）の株主配当実現への確実な一歩を踏み出します。

予 定 損 益 計 算 書

株式会社 日高振興公社

自 令和 8 年 4 月 1 日
至 令和 9 年 3 月 31 日

科 目	金 額	(円)
(営業損益の部)		円
【売上高】		
売 上	273,461,000	
受 託 料 等	3,650,000	
		277,111,000
【売上原価】		
期 首 棚 卸 高	2,169,000	
仕 入 高	113,500,000	
材 料 費	18,131,000	
合 計	133,800,000	
期 末 棚 卸 高	2,169,000	131,631,000
売 上 総 利 益		145,480,000
【販売費及び一般管理費】		129,005,000
営 業 利 益		16,475,000
(営業外損益の部)		
【営業外収益】		
受 取 利 息	20,000	
雑 収 入	1,250,000	1,270,000
【営業外費用】		
支 払 利 息 等		
雑 損 失		
経 常 利 益		17,745,000

予定販売費及び一般管理費内訳書

株式会社 日高振興公社

自 令和 8 年 4 月 1 日
至 令和 9 年 3 月 31 日

科 目	金 額
役員報酬	5,500,000
給料手当	35,000,000
退職給与引当金戻入	0
福利厚生費	7,500,000
雑給	13,700,000
シルバー委託費	3,400,000
広告宣伝費	4,500,000
運賃	120,000
外注費	1,200,000
燃料費	8,500,000
衛生費	5,700,000
業務委託費	3,000,000
一括資産償却費	250,000
水道光熱費	13,500,000
会議費	70,000
事務費	1,600,000
消耗品費	5,300,000
地代家賃	38,000
支払保険料	640,000
修繕費	2,000,000
租税公課	5,500,000
減価償却費	3,500,000
接待交際費	700,000
旅費交通費	400,000
通信費	400,000
支払手数料	4,400,000
賃借料	1,000,000
諸会費	380,000
購読費	50,000
雑費	1,157,000
合 計	129,005,000

報告第11号

株式会社シルク温泉やまびこ第22期の決算及び第23期の事業計画に
関する書類について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり報告する。

令和8年6月11日提出

豊岡市長 門 間 雄 司

決算等の状況の報告

株式会社シルク温泉やまびこ

第 22 期事業報告及び決算報告

1 事業報告

総売上高が 419,914 千円となり、過去最高の売上げを計上することができました。当期予算計画に対しては未達になりましたが、前期実績を 14,530 千円上回ることができました。

経営方針として、「すべては、お客様の『また来るよ』のために」を掲げ、部門ごとに取り組みを進めてきました。

宿泊部門では、但馬トップクラスのお宿を目指し、宿泊予約サイトの口コミ満足度 4.6 を前期に続いて維持することができました。

休憩部門では、法要、隣保の食事会、バスツアーの集客ができました。

売店部門・温泉部門では、前期から温泉部門で取り組み、お客様からご好評いただいた、毎月末にガラガラ抽選会を共に開催し、集客に努めました。

管理部門では経費削減と生産性の向上、利益確保に取り組みました。

主な部門の結果については以下のとおりです。

【結果】

総売上	419,914 千円	前期比	14,530 千円	103.6 %
営業利益	7,412 千円	前期比	4,936 千円	299.4 %
純利益	7,029 千円	前期比	3,681 千円	209.9 %

【主な部門の売上げ及び利用者数】

宿泊	232,989 千円	前期比	107.3 %	11,150 人	前期比	108.2%
休憩	27,710 千円	前期比	89.1 %	3,858 人	前期比	96.8%
売店	45,949 千円	前期比	107.6 %	32,521 人	前期比	103.9%
温泉	82,948 千円	前期比	100.2 %	115,684 人	前期比	101.3%
自然の郷	8,856 千円	前期比	90.6 %	1,204 人	前期比	86.9%
アウトドア	12,308 千円	前期比	98.1 %	3,776 人	前期比	94.5%

販売管理費におきましては、水道光熱費 25,728 千円 前期比 105.9%、燃料費 18,635 千円 前期比 99.8%、衛生費 12,348 千円 前期比 104.1%、支払手数料 18,798 千円 前期比 98.0%となり、特にガス料金の単価改正により水道光熱費が 1,433 千円増嵩しました。

また、お客様がより快適に過ごしていただけるよう、客室の窓を二重サッシへ改修しました。

2 事業実績

売上高の推移

(単位：千円)

区 分	第 20 期	第 21 期	第 22 期
宿泊部門 (休憩含む)	237,995	248,302	260,699
売店部門	41,283	42,686	45,949
温泉部門	78,176	82,783	82,948
自然の郷部門	10,786	9,771	8,856
アウトドア部門	13,769	12,543	12,308
業務委託部門	5,759	5,832	5,774
自販機売上	3,545	3,467	3,380
合 計	391,313	405,384	419,914

営業成績、財産状況の推移

(単位：千円)

区 分	第 20 期	第 21 期	第 22 期
営 業 利 益	2,513	2,476	7,411
当 期 純 利 益	6,738	3,348	7,028
総 資 産	145,588	147,156	149,755
純 資 産	100,510	103,857	110,886

3 会社の概要

(1) 資本金

資本金	50,000,000 円
-----	--------------

(2) 株式の状況

発行済株式総数	1,000 株
うち豊岡市保有分	510 株

(3) 役員の状況

役 職 名	役 員 名
代表取締役	持 田 淳
取 締 役	岸 本 直 幸
取 締 役	井 上 靖 彦
取 締 役	羽 尻 智 子
監 査 役	太田垣 健 二
監 査 役	田 中 信 吾

(4) 社員（従業員）の状況

区 分	社 員	パート	嘱 託	アルバイト	計
前期末(R7.3.31)	15	17	1	0	33
今期末(R8.3.31)	12	17	1	0	30
増 減	-3	0	0	0	-3

決 算 報 告 書

第 22 期

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

株式会社 シルク温泉やまびこ

兵庫県豊岡市但東町正法寺165番地

貸借対照表

(単位：円)

株式会社 シルク温泉やまびこ

令和 8年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 122,946,358】	【流動負債】	【 26,119,462】
現金及び預金	101,229,598	買掛金	9,310,211
売掛金	14,537,302	未払金	9,900,065
商品	1,364,296	預り金	1,912,686
貯蔵品	1,709,228	法人税等充当金	1,649,400
未収入金	4,042,934	未払消費税	3,347,100
前払費用	63,000	【固定負債】	【 12,750,000】
【固定資産】	【 26,809,213】	長期借入金	12,750,000
(有形固定資産)	(25,447,620)	負債の部計	38,869,462
建物	10,701,998	純資産の部	
建物附属設備	7,765,193	【株主資本】	【 110,886,109】
構築物	5,880,395	[資本金]	[50,000,000]
車両運搬具	1	[利益剰余金]	[60,886,109]
工具器具備品	973,715	利益準備金	12,500,000
一括償却資産	126,318	(その他利益剰余金)	(48,386,109)
(無形固定資産)	(701,593)	退職給付積立金	4,000,000
敷金	126,000	別途積立金	35,000,000
ソフトウェア	575,593	繰越利益剰余金	9,386,109
(投資その他の資産)	(660,000)	(うち当期純利益)	(7,028,714)
出資金	660,000	純資産の部計	110,886,109
資産の部計	149,755,571	負債・純資産の部計	149,755,571

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日

株式会社 シルク温泉やまびこ

至 令和 8年 3月31日

科 目	金 額	金 額
【売 上 高】		
宿泊売上高	260,698,895	
売店売上	45,948,771	
温泉売上	82,948,200	
自然の郷売上	8,856,092	
アウトドア売上	12,308,081	
業務委託売上	5,774,000	
自販機売上	3,380,210	419,914,249
【売上原価】		
期首棚卸高	1,846,843	
仕入高	138,944,854	
飲料仕入	6,340,773	
合 計	147,132,470	
期末棚卸高	1,364,296	145,768,174
売上総利益		274,146,075
【販売費及び一般管理費】		266,734,232
営業利益		7,411,843
【営業外収益】		
受取利息	108,437	
雑収入	1,835,790	1,944,227
【営業外費用】		
支払利息・割引料	187,547	187,547
経常利益		9,168,523
【特別利益】		
国庫補助金収入	2,348,100	2,348,100
【特別損失】		
固定資産圧縮損	2,348,100	2,348,100
税引前当期純利益		9,168,523
法人税等充当額		2,139,809
当期純利益		7,028,714

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日

株式会社 シルク温泉やまびこ

至 令和 8年 3月31日

科 目	金 額
役 員 報 酬	13,195,000
給 料 手 当	81,350,200
退 職 金	215,000
法 定 福 利 費	13,729,114
福 利 厚 生 費	2,286,565
雑 給	197,460
シルバー委託費	8,375,170
広 告 宣 伝 費	3,807,278
運 賃	161,302
サ ー ビ ス 費	3,707,255
燃 料 費	18,635,448
衛 生 費	12,348,194
リ ー ス 料	147,400
外 注 費	18,598,574
水 道 光 熱 費	25,727,849
事 務 費	1,738,084
消 耗 品 費	4,543,760
地 代 家 賃	756,000
支 払 保 険 料	596,126
修 繕 費	12,760,866
租 税 公 課	13,814,550
減 価 償 却 費	4,148,184
接 待 交 際 費	348,618
旅 費 交 通 費	168,201
通 信 費	1,076,040
支 払 手 数 料	18,798,102
賃 借 料	3,080,352
諸 会 費	510,153
購 読 費	115,884
雑 費	1,797,503
合 計	266,734,232

株主資本等変動計算書

株式会社 シルク温泉やまびこ

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月31日

	株 主 資 本					自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	そ の 他 利 益 剰 余 金					
当期首残高	50,000,000			12,500,000	41,357,395		103,857,395			103,857,395
当期変動額										
当期純利益					7,028,714		7,028,714			7,028,714
当期変動額合計					7,028,714		7,028,714			7,028,714
当期末残高	50,000,000			12,500,000	48,386,109		110,886,109			110,886,109

	利 益 剰 余 金 の 内 訳				
	利 益 準 備 金	退 職 給 付 積 立 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 合 計
当期首残高	12,500,000	2,500,000	33,500,000	5,357,395	53,857,395
当期変動額					
剰余金の内訳科目間の振替		1,500,000	1,500,000	△3,000,000	0
当期純利益				7,028,714	7,028,714
当期変動額合計		1,500,000	1,500,000	4,028,714	7,028,714
当期末残高	12,500,000	4,000,000	35,000,000	9,386,109	60,886,109

個 別 注 記 表

自 令和 7年 4月 1日

株式会社 シルク温泉やまびこ

至 令和 8年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・商品……最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……平成10年4月1日以後に取得した建物及び平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備・構築物は定額法、それ以外は定率法

無形固定資産……定額法

収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理……税込方式で計上している。

2. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額……21,904,326円

無形固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額……627,611円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

①当事業年度末日における発行済株式の数…1,000株

②当事業年度末日における自己株式の数……0株

③当事業年度末日に行う剰余金の処分に関する事項

令和8年6月2日開催予定の定時株主総会において決議を予定している。

退職給与積立金……2,000,000円

別途積立金の積立額……5,000,000円

次期繰越利益剰余金……2,386,109円

4. 1株当たり情報に関する注記

1株当たりの純資産額……110,886円10銭

1株当たりの当期純利益金……7,028円71銭

監 査 報 告

私監査役は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの第 22 期事業年度の貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表、事業報告及び付属明細書を監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

令和8年5月13日

監査役 太田垣 健二

監査役 田中 信吾

第23期事業計画案及び予定損益計画案

1 事業計画案

【経営方針】

すべては、お客様の「また来るよ」のために

【経営戦略】

(1)危機管理

消防計画等に基づく安全確保とマニュアル点検、事業継続計画の理解と実行体制の構築を図ります

情報共有の徹底、ダブルチェックによる安全管理、報告・連絡・相談の徹底を図ります

(2)戦略的経営改善

課題と目的を設定し、社員間で共有します。進捗・目標の可視化を図ります

(3)人材育成

上司が部下を育て自分もスキルアップできる環境を整えます

(4)健康管理

健康診断の受診、検査結果に対する早期治療の勧奨を行い、健康で働き続けられる職場を目指します

【予算計画】

総売上	427,045千円（前期実績	419,914千円	7,131千円）
営業利益	53千円（前期実績	7,412千円	△7,359千円）
純利益	466千円（前期実績	7,029千円	△6,563千円）

各部門のテーマ

宿泊 より適切で時代に即した宿泊予約運用体制の確立を目指します

売店 オリジナル商品を理解し、愛着を持って販売する体制を目指します

温泉 「また来るよ」と思っただけの温泉施設を目指します

自然の郷 売れる時期にしっかり売る体制を目指します

アウトドア ファミリーにターゲットをしぼりキャンプの稼働率アップを目指します

管理 生産性の改善と高付加価値化の両立を目指します

【その他】

- ・物価高騰に伴い、条例宿泊上限料金の改定を行いました。
- ・今年度は、市による温泉館の長寿命化工事が予定されています。

今期も経営方針及び経営戦略に沿って、各部門のテーマを実行し顧客満足度を高め予算達成できるよう役員、社員一丸となり取り組んでまいります。

2 予定損益計画案

予 定 損 益 計 算 書

株式会社 シルク温泉やまびこ

自 令和 8年 4月 1日

至 令和 9年 3月 31日

科 目		金 額	
【経常利益の部】			千円
(営業損益の部)			
【売上高】			
売上高		427,045	
			427,045
【売上原価】			
期首棚卸高		1,364	
仕入高		147,972	
合計		149,336	
期末棚卸高		1,364	147,972
	売上総利益		279,073
【販売費及び一般管理費】			279,020
	営業利益		53
(営業外損益の部)			
【営業外収益】			
受取利息		5	
雑収入		588	
営業外費用		180	413
	純利益		466

販売費及び一般管理費内訳書

自 令和 8年 4月 1日
至 令和 9年 3月31日

科 目	金 額
	千円
役 員 報 酬	14,400
給 料 手 当	86,223
法 定 福 利 費	14,640
福 利 厚 生 費	2,743
シ ル バ ー 委 託 費	8,851
広 告 宣 伝 費	3,781
運 賃	167
サ ー ビ ス 費	3,526
燃 料 費	19,980
衛 生 費	12,407
リ ー ス 料	149
外 注 費	17,899
水 道 光 熱 費	26,278
事 務 費	2,207
消 耗 品 費	4,907
支 払 保 険 料	637
修 繕 費	12,411
租 税 公 課	13,072
減 価 償 却 費	5,102
接 待 交 際 費	600
旅 交 通 費	306
通 信 費	1,095
支 払 手 数 料	20,705
賃 借 料	3,767
諸 会 費	366
購 読 費	115
地 代 家 賃	756
雑 費	1,930
合 計	279,020